

薬学部

楽しく学ぼう!

2020 08 15

模擬授業

体験実習

オープンラボ

ガイド

薬学部・オープンキャンパス タイムスケジュール

◆ 薬学科のご説明 (是非ご参加ください) (3階303教室)

10:00~10:20 14:00~14:20

◆ 模擬授業 (3階 303教室)

 $10:20\sim10:50$ $14:20\sim14:50$

- ◆体験実習 (4階 436 SGDルーム) 「くすりの正しい使い方」薬学生ができる薬育 9:00~12:00 13:00~16:00
- ◆オープンラボ (4階 437教室) 「身の回りに潜む有害物質をはかる」 「薬とコンピュータ・シミュレーション」 9:00~12:00 13:00~16:00
- ◆オープンラボ (4階 416 専門ラボ 6) 「組織や細胞を見てみよう」 9:00~12:00 13:00~16:00
- ◆学生交流・進学相談 (3階304教室) 「薬学部のこと、薬剤師のこと、なんでも訊いてみよう」 9:00~12:00 13:00~16:00

その他(全学部共通) 9:00~12:00 13:00~16:00

(会場)

個別相談(入学者選抜・奨学制度) 個別相談(就職) 入学者選抜説明・面接対策動画配信 メディアライブラリーセンター見学

(1階 食堂)

(1階 就職支援室)

(各階 休憩室)

(8階 図書館)



模擬授業

 $(10:20\sim10:50\ 14:20\sim14:50)$

303教室 (3階)

地域のハブとしての薬局 一地域社会で薬剤師ができること-

私たちの日常生活において、病院にかかったり薬をもらったりということは特別なことではありません。それだけ医療というものが日常生活のすぐそばにあります。そして薬局は、ドアをひとつ開けるだけで医療専門家である薬剤師がいつもいる場所です。地域社会で薬剤師ができることって何だろう?地域社会の中で薬剤師ができることはたくさんあります。そんなお話をしたいと思います。

教授 菊地 真実



東京理科大学薬学部卒業。早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(人間科学)。病院薬剤師、薬局薬剤師を経て、2019年度より本学に着任しました。

薬について学ぶとき、薬だけに 注目するのではなく、薬を使う 患者さんのこともしっかり考え ることを大切にしています。



くすりの正しい使い方 (薬育)

映像や写真で見る薬学生ができる薬育・薬物乱用防止教育

会場:SGD ルーム(4階 436)

9:00~12:00 13:00~16:00 (見学は自由です)

医薬品医療機器等法のなかで、国民の役割として、「国民は、医薬品等を 適正に使用するとともに、これらの有効性及び安全性に関する知識と理解を 深めるように努めなければならない。」との条文があることはご存知ですか。 くすりは正しく使用しなくてはなりません。また薬がどうして効くのかが分か ると、薬物乱用の恐ろしさが分かります。薬学生が、小・中学校や、地域のイベントで薬育及び薬物乱用防止教育を行っている様子を、映像や、写真で ご覧ください。

薬学生が、中学生に薬育・薬物乱用防止教育を行っている様子



薬学生が、小学生に薬育を行っている様子







担当教員 社会薬学教育研究センター 福島紀子、鈴木政雄、 菊地真実

オープンラボ

身の回りに潜む有害物質をはかる

会場:4階 437教室

時間:9:00~12:00 13:00~16:00

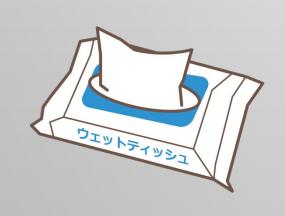
豊かな社会生活に欠かせない化学物質を 安全にかつ安心して利用するには、化学物質を適切に管理することが不可欠です。 そのために、化学物質のばくろ量*と有害性 を調べて、科学的手法によって化学物質の 健康リスク評価を行っています。



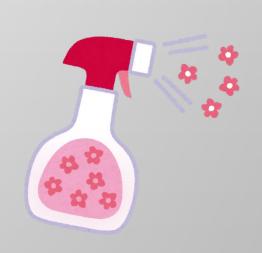
(*ばくろ量:触れたり吸ったり食べたりして体内に入る量)



オープンラボでは、研究の一環として 実施した、身の回りの製品に含まれてい る可能性がある有害物質の分析例を紹介 します。







担当:創薬基盤教育研究部門

薬品分析学ユニット 伊佐間和郎

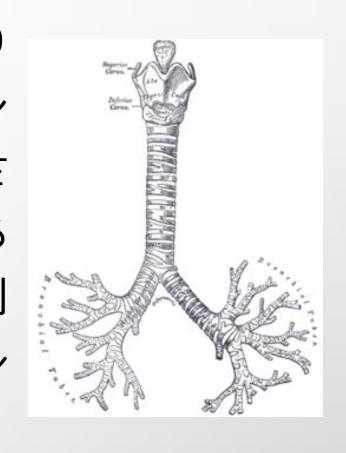
オープンラボ

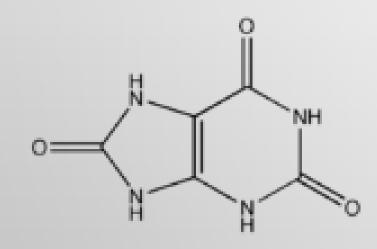
薬とコンピュータ・シミュレーション

会場:4階 437室

時間:9:00~12:00 13:00~16:00

新しく薬を作りだすスピードを上げたりコストを削減したりするために、コンピュータをはじめとする情報技術が活用されています。例えばデータベースの中から薬にできそうな分子を選択したり、吸入剤の粒子の流れをコンピュータを使ってシミュレーションしたりしています。





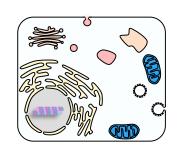
薬にできそうな分子がタンパク質と結合している様子や口から気管支までの吸入剤の粒子が流れる様子をディスプレイを使って展示します。





担当:創薬基盤教育研究部門

医薬解析学ユニット 渡邉 丈夫



オープンラボ

薬学のラボを体験しよう!!

細胞や組織を見てみよう

会場・時間 専門ラボ 6 (4階 416)

9:00~12:00 13:00~16:00(見学随時)

私たちの体は、細胞という小さな『粒』が集まった組織や臓器でできています。そして、この細胞や組織で働いているタンパク質は、様々な疾患と関与することが知られています。私たちは、これらタンパク質の研究を行うことで、新しい薬の標的を見つけようと試みています。今回のオープンラボでは顕微鏡で細胞や組織を観察することで、普段おこなわれている研究の一部を体験してみて下さい。

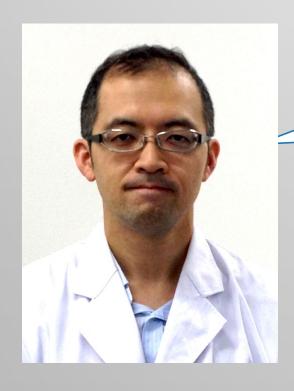
担当教員

ヒトの体には約60兆もの細胞が存在し、それ ぞれの細胞がつくるタンパク質が生命現象を 調節しています。普段は目に見えない細胞や 組織を実際観察してみましょう。



細胞生化学ユニット 土本 雅文

細胞生化学ユニット青木一直



新しい薬の開発には、その対象である病気や疾患の背景にある生命現象を詳しく理解することが必要です。 そのため薬学部では分子・細胞レベルでの基礎的な生命科学の研究も活発におこなわれています。